①行政がパートナーとして組む

課題１　個人の課題から行政事業へ繋ぎにくい

解決策：市民が発信しやすい仕組み

・こまえくぼ 1234 をスタート地点に
・オンライン（SNS）で市民が発信するチャンスを増やす（生活で感じている課題、課題未満の不満や気がかりなこと等）
・10 代、20 代…等世代ごとのサミットで課題を吸い上げ行政提案に繋げる

市民参加にも共通

解決策：周知・啓発（意識の向上）

・成功例を広く認知できる場づくり
　★素晴らしい活動への表彰
・市民が市民を評価する【ピアネットワーク】
・人が多く集まる場（市民まつり等）を活用した PR
・市民活動情報誌「わっこ」の活用
・市民公益活動に関するワークフローの HP 等への掲載
・現状の告知コンテンツの洗い出しと市民の生活動線を踏まえた接点の再構築
・情報の受け取りやすさ

・広報こまえ、市役所パネル展等
・市民提案の一例を紹介（リアルに感じるられる）

課題２　周知・理解不足

課題３　専門性・情報支援不足

解決策：こまえくぼ 1234 の活用

・相談窓口の集計・報告のストック

課題４　継続・育成の難しさ

解決策：長期的な事業実施

・育成のための研修を行政とともに行う
・長期的にまちのためになる事業を募集する
・こまえくぼ 1234 の予算増
・複数年度予算を考える
・応募を複数年に渡るようにする

課題５　行政との役割分担が明確でない

解決策

・条文を分かりやすくする
・市民の声課⇔行政の施策に変換する

課題６　市民と行政の関係性の維持

解決策

・引継ぎ、ローテーション
・担当部署に１人はこれまでの流れを知っている職員がいる状態にする
・役所内に市民の目線で相談できる市民と行政を繋げる部署を設置する

②行政がプラットフォームを整備する

課題１　市民公益活動に対する認知不足（市の課題、活動の成果、支援策等）

課題２　市の目標値・課題が不明

解決策：基準・目標値等の明確化

・市の課題（やってほしいこと）や目標を明確にして募集
・活動の水準を踏まえた目標値の設定
・自立した団体や個人に目標を与える

課題３　行政との関わりへのハードルの高さ

解決策：支援制度等の改善

・実践ベース、実現可能性を基に財政的支援を行う
・申請書類等の簡素化
・協働事業等の複数年度化（単年度ではなく）

★条例に基づく運用面での改善等の対応

活動していない人（関心がない人）
➡周知・啓発（意識の向上）等※市民参加共通

活動している人・始めようとしている人
➡・既存制度等の改善
　・こまえくぼ 1234 の機能強化　等

テーマ１　行政とパートナーとして組む

奥村会長（進行）、西委員、岡本委員、石田委員（発表）、伊東委員、小林委員、馬場委員

１．個人の課題から行政事業へ

（課題）

・やりたいことを自由に提案できる形を

・市民が提案したことをストックして事業に起こすことができれば

・個人が感じる課題から団体をつくるのが大変

・市の課題を投げかけてほしい。（今の行政提案は抽象的）

・市民の声を集約して行政提案型市民協働事業へ結びつける仕組みがあると良い。

（解決策）

・（個人の課題から）こまえくぼ 1234 がそのスタート地点になりうるのでしょうか。

・オンライン（ＳＮＳ）で市民が発信するチャンスを増やす。（相互に！いつでもどこからでも市政へ）

・（周知）街に住んでいて生活で感じる課題を行政へ簡単に発信できる仕組みをつくる。

・課題未満の不満や気がかりを気軽に投げ込めるフォームをつくる。

・10・20・30・40 代など世代ごとのサミットで課題を吸い上げ行政提案へつなげる。

２．周知・理解増進

（課題）

・市民が何を望んでいるか把握してほしい。

・何かをやりたいと思っている個人は多くいると思うが、その人たちがつながることのできる場所がない。

・市民個人が感じている課題が行政へあがっていない

・こまえくぼの周知、活用、広報活動

・公益活動は敷居が高そう。

・同年代（若い世代）がいなかったらどうしようと一人で悩み諦めてしまう。

・そもそもパブコメなどの制度を知らなかった。

・行政がパートナーとなってくれる仕組み自体、審議会の委員になって初めて知った。

（解決策）

・（周知）広報こまえ、市役所にパネル等

・市民提案の一例を見ることができるとリアルに感じられる。

３．専門性・情報支援

（課題）

・活動に費用（経費）がどれくらいかかるかイメージしにくいのではないか。

・申請支援（書類・パワーポイント・説明ノウハウ）

・こまえくぼで提案内容を添削してほしい。

・市民目線から考えると行政（事務担当者）からアドバイスしてほしい。
・市役所の職員ないし議員にどこまで頼っていいのか。

（解決策）
・こまえくぼ相談窓口の集計・報告のストック

４．継続・育成

（課題）
・継続していく時、いつも応募しないといけないのか？
・事業を育てるのが行政の役割の時も…
・単年度にお金を使い続けること
・継続的活動（３回のチャレンジ補助金交付以降）の市との協働
・補助金も提案型事業も単年度ではなく複数年継続することで市民（団体のメンバー）を育ててほしい。

（解決策）
・（継続）育成のための研修を行政と共に行う。
・長期的に街のためになる事業を募集する。
・継続に関しては、審査基準の見直しが必要？
・（継続）こまえくぼの予算増
・複数年度予算を考える。応募を複数年にわたるようにする。

５．役割明確化

（課題）
・協働していく時、どこまで市がやってくれるか分からない。
・協働パートナーの市民側はボランティアが当たり前のようなイメージがある。
・役割分担を明確にする→市民と行政は対等な立場ではないので、理解が違わないように
・市民活動でどこまで事務作業（サポート）してくれるかが分からない。支援を受ける側もどこまで言っていいのかわからない。役割分担を明確にしてほしい。

（解決策）
・条文をわかりやすくする。誰が読んでも理解できるように
・市民の声課⇔行政の施策に変換する。

６．市民と行政の関係性の維持

（課題）
・これまでの事例にないことの実施はハードルが高い。
・異動があり市の担当者が変わる。担当者の志し次第

（解決策）
・引継ぎ、ローテーション
・（関係性の維持）担当部署に１人はこれまでの流れを知っている職員がいる。
・役所内に市民が担当する場（相談センター）みたいなものを設置する。市民の目線で相談できる市民と行政をつなげる部署

テーマ２　行政がプラットフォームを整備する

関谷副会長（進行）、深谷委員、麻宮委員、伊藤委員、大門委員（発表）、箕輪委員、若山委員

【課題・問題認識】

●市民公益活動に対する認知不足（市の課題、活動の成果、支援策等）

・プラットフォームとなり得る市民フォーラムの認知度が低い。
・市民が個人でも団体でも活動を始めたいと思った時に、どこに、誰に相談に行ったらよいのかが分かりやすくなるとよい。
・情報提供してもらえる場所・相談窓口が分からない。
・市からの市民公益活動の情報配信が十分でない。ウェブで検索できるとよい。
・普通に生活していると情報がほとんど入って来ず、どのような催しがあって、どのような団体がどのような活動をしているのか、成果を出しているのか分からない。
・市民公益活動という活動自体の認知度が低い。

●目標値・課題が不明

・過去５年の実績件数が多いのか少ないのか分からない。
・市の課題・生活課題が分からない、共有されていない。
・どの程度の整備が必要なのか、行政側の目標が分からない、ロードマップが見えない。
・活動の目的に対して、同じベクトルで理解して、協働してもらえる仕組みが分かりやすく表示された表があるとよい。

●行政との関わり

・市外勤務者にはなかなか接点がなかった。
・参加という点で、心理的ハードルが高い。
・行政との提案のイメージがわかない。
・団体の補助金への依存が強い。

【解決策等】

●周知・啓発（意識の向上）

・成功例を広く認知できる場合を作る。（素晴らしい活動に市長から表彰する等）
・市の特性（8.1万人、６㎢）、周知に対し小回りがもっと効くのではないか。
・市民が市民を評価する。（ピアネットワーク）
・人が集まる場（市民まつり等）に紐付ける形で、市民公益活動のＰＲをする。
・市民活動情報誌「わっこ」の活用

・市民公益活動についてウェブ上にワークフローを記載する。
・受け身の発信ではない形にする。（見に行かないと知る事ができないのではなく）
・現状の告知コンテンツの洗い出しと市民の生活動線を踏まえた接点の統合的再構築

●基準、目標値等の明確化
・市の課題（やってほしいこと）や目標を明確にして募る。
・活動の水準を踏まえた目標値の設定
・自立した団体や個人に目標を与えていく。

●支援制度等の改善
・財源について、実践ベース、実現可能性で判断して支援を行う。
・申込書類の簡素化
・活動に対し１年ではなく、３年、５年等長期の案件があってもよいのでは。